

新たな一年に祈りを込めて

# 108発の除夜の花火

大みそかから元旦をまたぐ午前0時。浅川の澄んだ大気に打ち上げ音が響きわたり、108発の祈りの花火が冬空をつぎつぎと焦がします。

今年の大みそか、どう過ごす？

はやくも師走の月になりました。アレコレ忙しく過ごしてやっと迎える令和4年の大みそか。ここ数年の「コロナ禍でお出かけを控えていた人も、年末になればやっぱり「新しい年が良い年でありますように」と神様に手をあわせたりりますよね。まだまた油断はできませんが、今年の31日はしっかりと感染対策をして、浅川町の「除夜の花火」で年明けを迎えてみませんか。

ご存知の方も多いと思いますが、浅川は「花火の里」として知られています。その歴史は300年以上。毎年お盆に慰霊のため行われる花火大会は江戸時代の中古から続く伝統行事で、ふくしま最古の花火大会といわれています。

浅川の人にとって花火は先祖とのつながりを強く感じる大切なものです。先輩たちが作りあげた伝統を守り、仲間たちと共に『花火の里』を盛り上げ、後世につないでいきます。

新年0時00分、打ち上げ開始

町指定の無形文化財であるお盆の花火大会は本町・荒町の青年会を中心となつて代々伝統を受け継いでいます。一方、「除夜の花火」はいまから40年前に商工青年部によつて始められました。舞台は、町の氏神様である白山比咩(しらやまとひめ)神社。花火の打ち上げ地点は城山公園の東社川支流に広がる河川敷です。大みそか31日午後10時ごろには、境内の駐車場に破魔矢や正月飾り、浅川特産の古文書をまとつた魔除花火など、縁起物が並ぶ出店が幕を張ります。一発目の打ち上げは元旦の午前0時00分。続いて、除夜の鐘にちなんだ108発の花火が次々に打ち上げられます。

「真冬は大気が澄んでいる分、花火の色が鮮やかでキレイ。音も遠くまで響いてすごくいいんですよ」と梅原さん。一年を通して花火を観続ける地元の人にとって、寒空に漂とする「除夜の花火」は特別な催しのようです。

除夜の花火の楽しみ方

城山公園のふもとにあり、900年近くの歳月をかさねる白山比咩神社。一の鳥居を

くぐり、若むす120段の石段を昇ると、迫力たっぷりの阿吽(あう)の飛び狛犬がお出迎え。本殿はその先に鎮座しています。大みそかの夜は参道に灯された200もの提灯や清め火が参拝客を迎えるが、お社の一帯は鬱蒼とした杉木立ちに包まれているため、境内からは花火を眺めることができます。境内からは花火に『除夜の花火』の楽しみ方とお参りのポイントを教えてもらいました。

「一番のビューポイントは、花火の打ち上げ地点正面にあるダイユーエイト浅川店さんの駐車場ですが、ほかにも周辺の事業所が駐車場を開放しています。午前0時の開始から108発目が打ちあがるまで、打ち上げ時間は30分ほどですから、『除夜の花火』で年を越してから、元朝まいりにお越しください。温かいココアを用意してお待ちしています」。

古い年を除き、新しい年を迎える除夜。今まで喜びが多い一年になるよう、冬の花火に願いを託しにまいりましょう。



新たな一年に祈りを込めて 108発の除夜の花火



悪疫退散、無病息災を願って打ち上げた花火の「カラ」に古文書の写しを張った魔除花火。浅川では古くから魔除けとして軒下につるす習慣がありました。

▲新たな年に祈りを込めて打ち上げられる花火



浅川町商工会青年部部長 梅原貴紀さん

浅川町にとって花火は先祖とのつながりを強く感じる大切なものです。先輩たちが作りあげた伝統を守り、仲間たちと共に『花火の里』を盛り上げ、後世につないでいきます。



商工会青年部による出店のほか、神社の参道でもお守りやお札を受けることができます。



白山比咩神社 24代宮司 浅川利一さん

祈りの花火と参拝で新たなる一年を

浅川町の花火は、古くから慰霊や鎮魂のために打ち上げられる祈りの灯です。『除夜の花火』も、行く年の厄をお払いし、来る年の無病息災を祈願する元朝まいりにふさわしい行事。浅川の人々の300年の思いが詰まった花火で心身を清め、靈験あらたかな御社に参拝して、穏やかに新しい一年をお迎えください。



飛翔狛犬は岡部市三郎・生田佐伊助の作。織細な彫りといまにも飛び掛かりそうな造形で狛犬ファンを魅了した。

▲1146年創建の白山比咩神社。石段が続く参道の景色はまさに鎮守の杜。



写真提供:浅川印刷所